

令和 4 年度沖縄地域MaaS導入推進調査事業

報告書【概要版】

令和 5 年 3 月

株式会社オリエンタルコンサルタンツ 沖縄支社

1枚のモバイルチケットで、滞在期間中、以下に示す事業者の路線バス、船舶（定期航路）への乗車・乗船を、原則制約を設けずに利用可能とすることで、移動に係わる予約や決済のストレスの低減、利便性向上を図り、公共交通観光の促進、圏域における周遊・滞在・消費等の促進、満足度向上等につなげることを目指すものとする。

【対象事業者および路線・航路】

石垣島路線バス	東運輸 カリー観光	石垣島内の全路線バス	+もう1島への訪問や、路線バスでの周遊促進 レンタカー利用の低減・レンタカー利用からの転換 一人旅、夫婦・恋人、友人・知人等をターゲットに
離島間定期航路	安栄観光 八重山観光フェリー	石垣島・西表島・竹富島・小浜島・黒島・鳩間島間の全定期船 (今回の実証では波照間島関連航路は対象外)	
離島内バス	西表島交通	西表島内の全路線バス	
離島内船	船浮海運	西表島内の白浜ー船浮間の定期船	

【目指すべき方向性】・・・三方良しの取組

【利用者】
1つのチケットで移動をわかりやすく・簡単に（利便性向上、ストレス低減など）

【事業者】
窓口業務（販売、発券）の負担軽減 利用者・収入増加

【地域】
持続可能な観光まちづくりの実現（環境にやさしい交通、消費の向上など）

モバイルチケットについて、具体的には、観光客の八重山圏域での観光動向や滞在日数を踏まえるとともに、今年度は実証としてニーズ等の把握や検証を行うため、2日券、3日券、4日券、5日券を作成する方針とした。また料金について、現状の八重山圏域の観光特性を踏まえて、もう1島への訪問や、路線バスでの周遊を促進できる料金設定とした。

【実証におけるMaaSチケットの料金】※大人運賃

	燃料サーチャージ 第1段階の場合	燃料サーチャージ 第2段階の場合	燃料サーチャージ 第3段階の場合
石垣・西表 周遊フリーパス(バス・船) [2日券]	5,000円	5,500円	6,000円
石垣・西表 周遊フリーパス(バス・船) [3日券]	6,000円	7,000円	8,000円
石垣・西表 周遊フリーパス(バス・船) [4日券]	7,000円	8,000円	9,000円
石垣・西表 周遊フリーパス(バス・船) [5日券]	8,000円	9,000円	10,000円



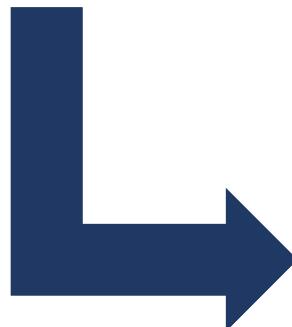
※小人運賃（小学生）は、大人運賃の半額とする（未就学児は無料）。

※今年度の実証の料金については、実証時期の燃料サーチャージの段階に応じて設定する方針とする。今回の実証時期は第2段階となるため、上記赤枠の料金とする。

※2日券は48時間、3日券は72時間、4日券は96時間、5日券は120時間利用可能とする。さらに今回の実証では、帰りの石垣空港までのバスへの乗車を考慮し、東運輸（石垣空港～離島ターミナル間）およびカリー観光の乗車券については、+6時間利用可能とする（例：2日券であれば2社の当該路線は54時間利用可、等）

実証目的	造成したMaaSサービスの有効性検証、課題把握 (利用者側のニーズや課題、提供側の評価や運用上の課題、等)
実証するMaaSサービス案	石垣・西表 周遊フリーパス（バス・船） [2日券～5日券の4つの券種]
提供方法	ジョルダンアプリのモバイルチケットを活用
実証期間	実証期間：2023年2月10日（金）～3月5日（日）※24日間 (チケット販売は2月1日（水）より開始)
実証規模	100-150名程度を想定 ※予算上限（約100万）に達した場合、期間前に終了とする

【実施結果の概要】



- 販売期間：2023年2月1日（水）～2月26日（日）
※予算上限に達したため期間前に販売終了
- 販売件数：139件、販売枚数：186名
- 販売金額：115万8千円

**石垣・西表
周遊フリーパス**

バス・船

石垣島 西表島 竹富島
小浜島 黒島 鳩間島

2023年2月1日(水)販売開始

利用期間(実証実験)
2023年2月10日(金)～3月5日(日)

石垣・西表周遊フリーパスで
沖縄八重山諸島の観光を満喫！

「石垣・西表周遊フリーパス(バス・船)」は、1枚のデジタルチケットで石垣島・西表島・竹富島・小浜島・黒島など、沖縄は八重山諸島のバス・船が、期間中定額で乗り放題になる、とってもお得で便利なフリーパスです。

2日券(48時間券)、3日券(72時間券)、4日券(96時間券)、5日券(120時間券)の4種類から、ご予定に合わせて購入が可能です。沖縄離島観光のおともに、ぜひご利用ください。

(※) 本フリーパスは、令和4年度沖縄地域MaaS導入推進調査事業(内閣府沖縄総合事務局)の一環として実証的に提供しています。予算の上限に達した場合は、利用期間の途中であっても販売終了する場合がございます。

ご利用可能な交通機関はこち
[▶](#)

ここが便利！石垣・西表周遊フリーパス

◀ 事前予約・都度支払い不要

スマートフォンアプリ「乗換案内」でデジタルチケットを購入すれば、画面を見せるだけで対象のバス・船が期間中乗り放題に。旅行の移動がもっと便利になります。

らくらく！

◀ 滞在日数にあわせて選べるチケット

乗り放題時間ごとに、2日券(48時間乗り放題)から5日券(120時間乗り放題)までご用意。旅程にあわせて商品を選べます。

ちょうどいい！

◀ 帰りのバスまであんしん「プラス6時間」

帰りのユーグレナ石垣港離島ターミナルから石垣空港までのバスは、各チケットの利用時間がプラス6時間されます。

あんしん！

「石垣・西表周遊フリーパス(バス・船)」は、スマートフォンアプリ「乗換案内」から購入いただけます。

[▶ 乗換案内へ](#)

「石垣・西表周遊フリーパス(バス・船)」のご利用には、スマートフォンアプリ「乗換案内」の最新バージョン(※)が必要です。
(※)iOS 4.38.0以上、Android v5.18.0以上

フリーパスの種類

「石垣・西表 周遊フリーパス(バス・船)」は、東運輸・カリー観光・西表島交通のバスと、安栄観光(波照間航路を除く)・八重山観光フェリー・船浮海運のフェリーが乗り放題のデジタルチケットです。

2日券(48時間券)

大人(中学生以上)	5,500円
小人(小学生)	2,750円

3日券(72時間券)

大人(中学生以上)	7,000円
小人(小学生)	3,500円

4日券(96時間券)

大人(中学生以上)	8,000円
小人(小学生)	4,000円

5日券(120時間券)

大人(中学生以上)	9,000円
小人(小学生)	4,500円

(※) 各券、未就学のお子様は大人1名につき1名まで無料、それ以上は小人料金となります。
(※) 料金には燃油サーチャージ(燃料油価格変動調整金)が含まれております。乗船時に追加料金のお支払いはございません。

ご利用可能な交通機関

ご利用可能な交通機関

- 石垣島内の全路線バス(運行:東運輸、カリー観光)
- 石垣島・西表島・竹富島・小浜島・黒島・鳩間島間の全定期船(運航:安栄観光(※)、八重山観光フェリー)
- 西表島内の全路線バス(運行:西表島交通)
- 西表島内の白浜一船浮間の定期船(運航:船浮海運)

(※) 波照間島間連航路は対象外です。

時刻表

フリーパスご利用の参考に、石垣空港 ⇄ 石垣港離島ターミナル間のバス、および離島航路に関する2つの共通時刻表を掲載しています。バスのその他区間については、各事業者のホームページからご確認ください。

石垣空港 ⇄ 石垣港離島ターミナル間バス

石垣空港～石垣港離島ターミナル間は、東運輸、カリー観光の2社のバスが運行しており、本フリーパスではどちらもご乗車いただけます。

石垣空港 ⇄ 石垣港離島ターミナル間バス共通時刻表(PDF)

離島航路

本フリーパスは、石垣島、西表島(大原港および上原港)、竹富島、小浜島、黒島、鳩間島間の定期離島航路すべてにご乗船いただけます。運航は安栄観光、八重山観光フェリーの2社が運航しており、どちらも乗船可能です。また、西表島内の白浜港～船浮港間(船浮海運)の船にも乗船いただけます。

離島航路 共通時刻表(PDF)

(※) 本フリーパスの利用期間である2月から3月上旬は、西表島

・プレスリリース：

→Yahoo!ニュースなど20以上の媒体で転載

・関係者の皆様からの告知等：

→沖縄観光コンベンションビューロー、八重山ビジターズビューロー、石垣市観光交流協会、竹富町観光交流協会、沖縄県観光振興課等のWEBページ、SNS等における告知

・リストティング広告：

→「石垣 バス」「西表 船」等の想定される検索キーワードに対して、Google等の検索結果に連動して表示されるリストティング広告を実施

・経路検索バー：

→ジョルダン乗り換え案内の検索結果に連動し、本造成チケットへのリンクを掲出

(イメージ)



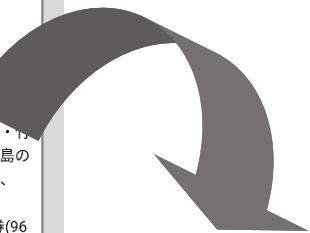
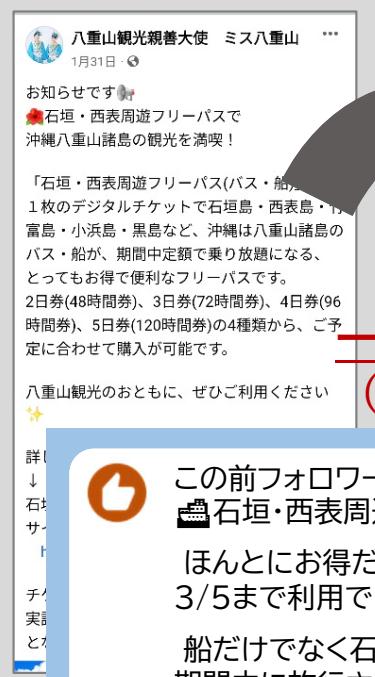
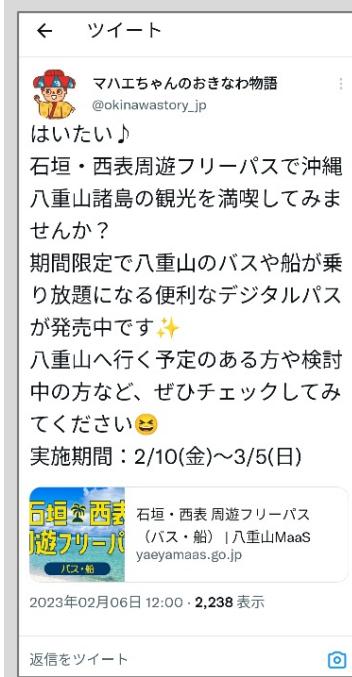
・ラジオでの告知：

→東京FMラジオ番組における告知（2月17日、TOKYO TEPPAN FRIDAY、てっぱんぶらり旅）

・石垣空港でのチラシ配布：

→2月10日-11日かけて、石垣空港のバス停付近で本チケットに関するチラシを配布

・関係者の皆様からの告知等



一般の方のSNS等での拡散も
(Twitter、ブログ等)

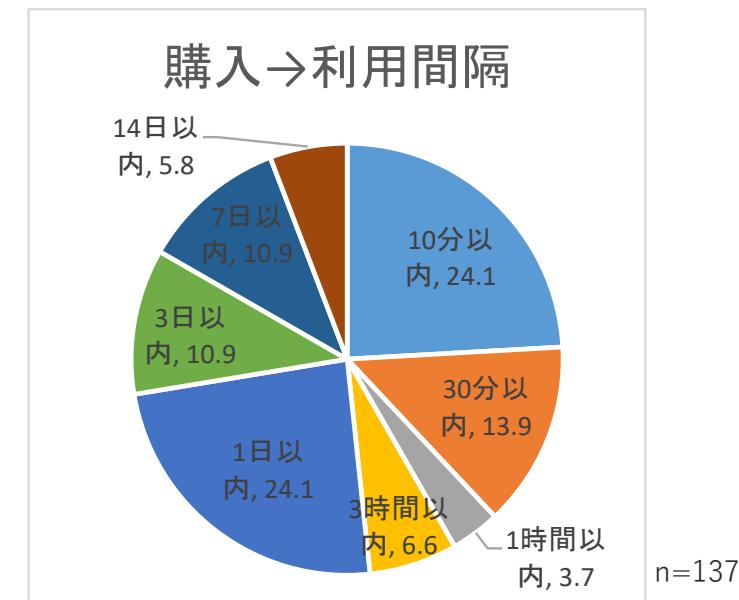
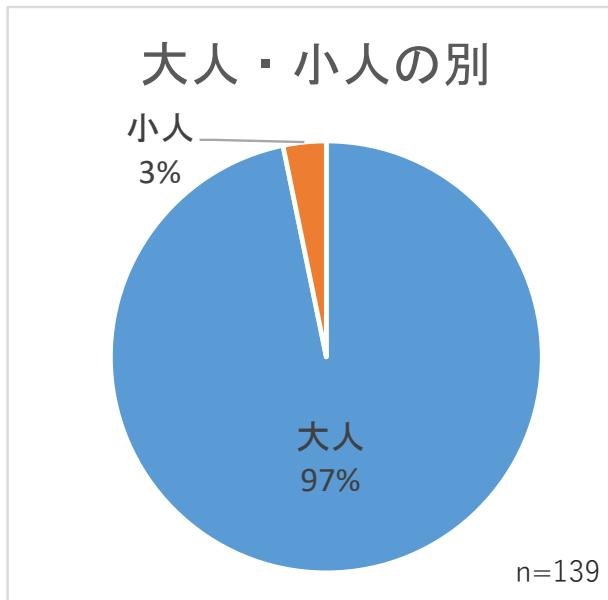
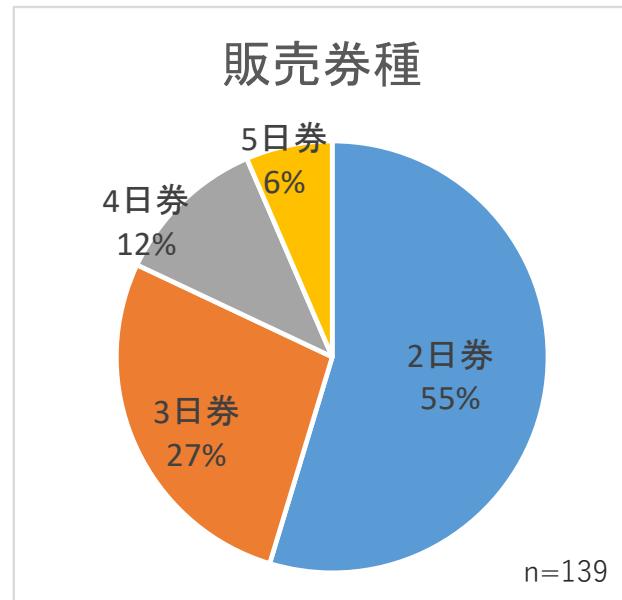
この前フォロワーさんに教えて頂いた
石垣・西表周遊フリーパス
ほんとにお得だから改めて紹介
3/5まで利用できるよ
船だけでなく石垣・西表のバスまで乗り放題
期間中に旅行される方は必見です

石垣・西表周遊フリーパスの何が良いかってスマホで行き先ポチポチして画面見せるだけで乗船出来るから、港に2分前に着いても余裕でスムーズに乗船できるのが良かったですね

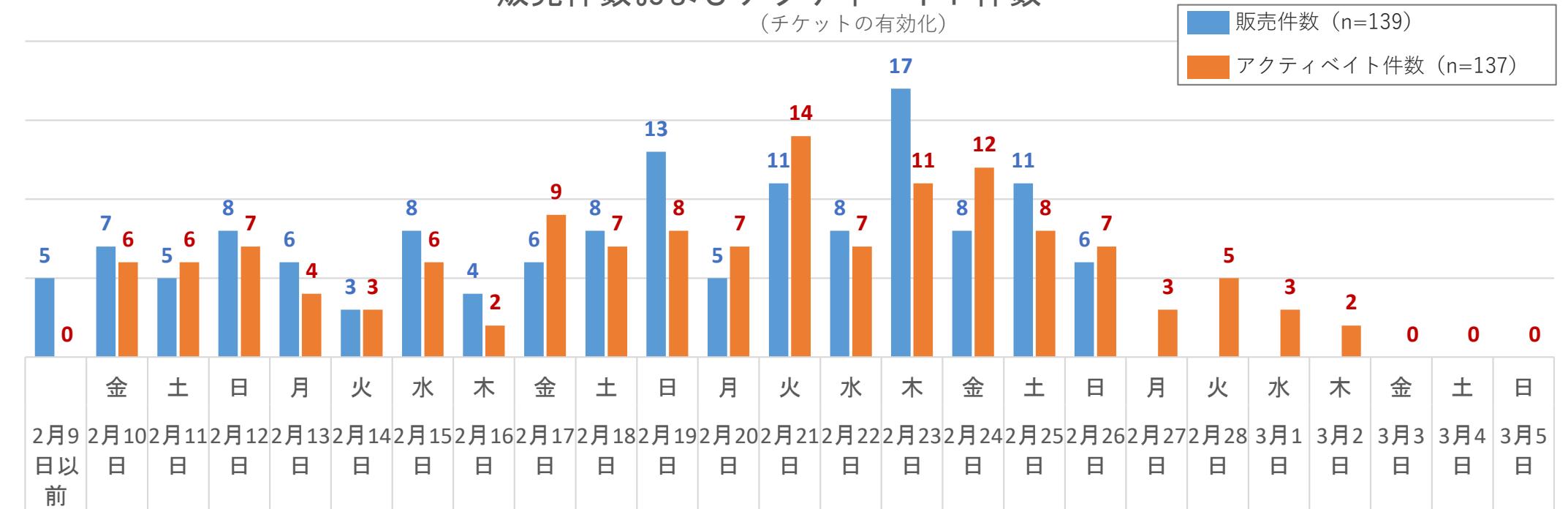
3/5までに時間が作れる方は是非。残念ながら、私は行けないのですが(;O;)

使えるチケットがスマホにずっと並ぶから最強の気分になれる

各離島間のフェリー2社とも乗り放題で石垣島、西表島のバスも乗り放題で3日間7,000円、4日間8,000円、5日間9,000円無敵最強の石垣・西表周遊フリーパス全人類使った方が良い



販売件数およびアクティベイト件数 (チケットの有効化)



チケット利用のあった137件のうち、136件が石垣島以外の離島を訪問。その内訳は以下のとおり。

【離島の訪問状況概要】

西表島訪問 123件 (90%)

竹富島訪問 104件 (76%)

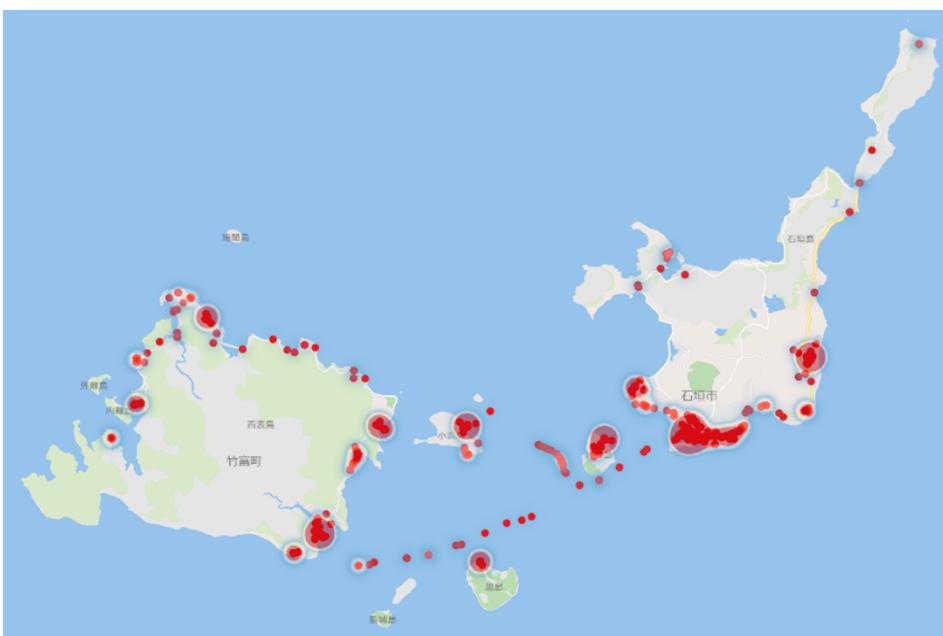
小浜島訪問 73件 (53%)

黒島訪問 35件 (26%)

鳩間島訪問 2件 (1%)

→平均 石垣島 + 2.46島訪問

【参考：ジョルダンアプリ位置情報提供許諾者の取得状況】



【離島の訪問パターン】

石垣島 + 4島周遊 (19件、13.9%)

西表島	竹富島	小浜島	黒島	鳩間島	件数	割合
●	●	●	●	-	17	12.4%
●	●	●	-	●	1	0.7%
●	-	●	●	●	1	0.7%

石垣島 + 3島周遊 (40件、29.2%)

西表島	竹富島	小浜島	黒島	鳩間島	件数	割合
●	●	●	-	-	29	21.2%
●	●	-	●	-	5	3.6%
●	-	●	●	-	4	2.9%
-	●	●	●	-	2	1.5%

石垣島 + 2島周遊 (64件、46.7%)

西表島	竹富島	小浜島	黒島	鳩間島	件数	割合
●	●	-	-	-	39	28.5%
●	-	●	-	-	11	8.0%
-	●	●	-	-	8	5.8%
●	-	-	●	-	6	4.4%

石垣島 + 1島周遊 (13件、9.5%)

西表島	竹富島	小浜島	黒島	鳩間島	件数	割合
●	-	-	-	-	10	7.3%
-	●	-	-	-	3	2.2%

3位

2位

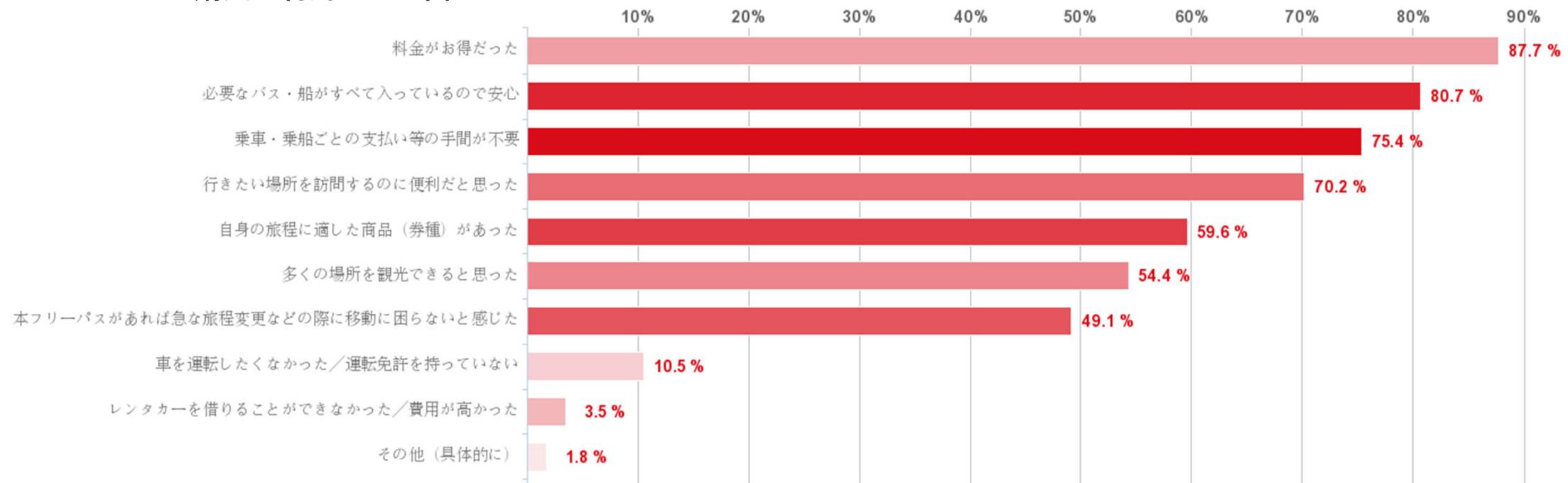
1位

4位

5位

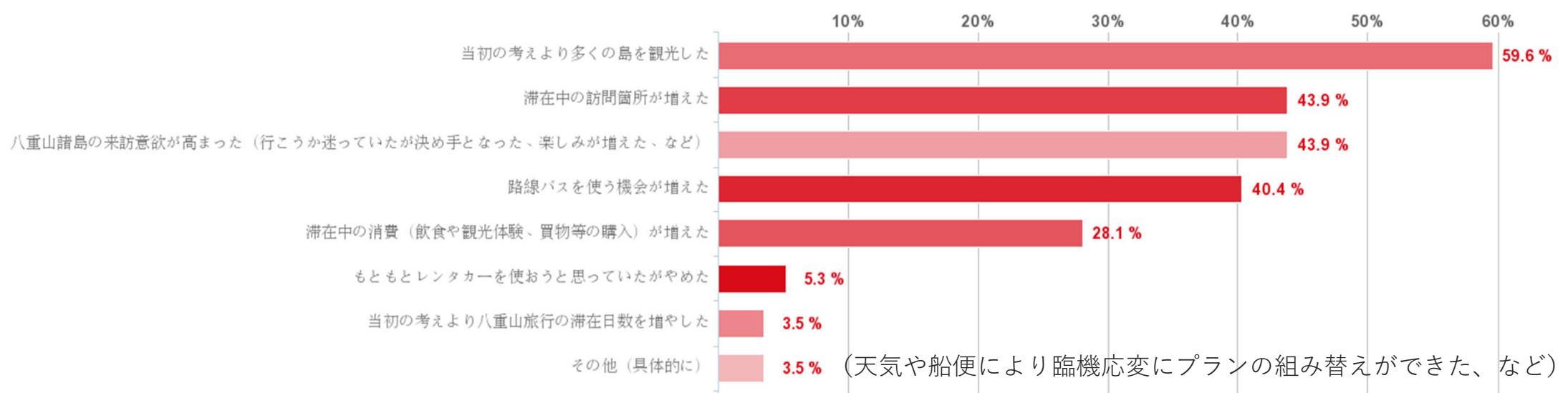
n=57

フリーパスを購入・利用した理由



n=57

フリーパスを購入・利用したことによる移動手段や観光プランの変化



n=57

【利用者側の視点（評価や課題）】

- 当初に掲げた目的・目標は、利用者視点では概ね狙い通り達成・評価されたと言える（販売状況、SNS等の声。アンケート集計および意見等より）。
 - 特に2日券・3日券のニーズが高かった。
 - 県外（三大都市圏）の20代から50代の利用が多く、一人旅、もしくは夫婦、恋人、友人・知人との2人での利用が大半を占めた。
 - 今回初めて八重山に来訪したという方が半数以上。
 - 価格的な優位性だけでなく、必要なバス・船がすべて入っていて安心、都度支払いの手間が不要、行きたい場所にいくのに便利、困らないなど安心感や利便性も購入理由の大きな要因となっている。
- 満足度、利用意向も極めて高いが、ユーザビリティ、わかりやすさ等についての改善は求められる。

【事業者側の視点（評価や課題）】

- 短期的な取組であったため、スタッフへの浸透面ではやや課題があったかもしれないが、全体としては今回の取組は「見るだけなのでとても使いやすい、便利」といった反応であり、窓口業務の負担軽減に繋がる方向ではないかと考えられる。
 - 今回は閑散期なのでスムーズにできたが便数の増える繁忙期については改めて検証の必要がある。
- フリーパスの周遊促進効果は非常によかったと思う一方、通常運賃の70%だと年間で考えた場合のマイナスが大きく金額設定については検討が必要。
 - 妥当な金額設定、割引率の検討（一つの目安として旅行社への手数料率等）。
 - 通年データ取得による閑散期・繁忙期、平日・休日等でのダイナミックプライシング検討。
 - お得感よりも八重山が一つになった一体感、安心感、利便性の打ち出し。
 - 本フリーパスによる需要喚起効果を踏まえ、観光客が利用することで収益が上がり、地元の人たちの足の確保にもつながるという視点も重要。
- また、実装する上では、一定の運営コストや、モバイルチケットの利用料、決済手数料等も必要であり、この点をどう捻出するか議論をしていく必要がある。

【地域・社会的な視点】

- 本フリーパスにより、八重山諸島の来訪意欲が向上するとともに、滞在中の訪問箇所、消費が増加。一人あたり平均3、76島訪問。八重山旅行の満足度向上にも寄与。
- また路線バスの利用機会が増加するなど、環境にやさしい移動手段の増加に寄与。
 - 利用者の40.4%が路線バスを使う機会が増えた。5.3%がレンタカーの利用を取りやめた。
 - 今回のフリーパス利用者の45.6%がレンタカーも併用しており、このことは、滞在中全期間ではなく、自身の観光プランに本フリーパスをうまく当てはめてかしこく観光していることを示唆している（→この観点で考えると全期間レンタカー利用から一部期間はバス利用等へ置き換わっていることも想定される。したがってアンケート結果の5.3%以上にレンタカー利用からの転換があるのでないかと推察される）
- またデータを継続的に取得可能な点も大きく、継続することで観光客の動態データが蓄積できる。
 - 望ましい八重山の公共交通体系の検討への展開。
 - 世界自然遺産地域（西表島）でのエリア入域コントロールや、自然環境負荷へのモニタリングなど持続可能な観光マネジメントへの活用へ。

①対象事業者や航路、券種等の拡充検討	<ul style="list-style-type: none"> ・竹富島交通、小浜島交通、由布島水牛車、レンタサイクル、など ・波照間島、与那国島 ・上記を踏まえた券種のバリエーションの検討。時間券の拡充、など
②観光施設、観光アクティビティ、イベント等との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・さらなる滞在や消費の拡大に向けた観光施設、観光体験等との連携（パッケージ化） ・離島イベントとの連携、など
③キャリアとの連携	<ul style="list-style-type: none"> ・航空会社と連携したMaaS展開（航空会社のアプリ内での周知、など） ・バス便と飛行機便の紐づけ、案内、など
④妥当な金額設定、割引率の検討	<ul style="list-style-type: none"> ・本取組の効果、利用者への訴求性など踏まえた妥当な金額設定、割引率の検討 ・一つの手法としての、閑散期・繁忙期、平日・休日等でのダイナミックプライシングの検討、など
⑤実績データ取得の高度化	<ul style="list-style-type: none"> ・精緻な乗降実績データを取得するためのモバイルチケットの認証方法の検討 ⇒目検からQRコードMPM方式の検討や、認証機器の検討、など ・運賃分配計算ロジック（システム）の構築、など
⑥ベースとなる公共交通の利便性向上	<ul style="list-style-type: none"> ・利便性の高いダイヤ等への見直し検討（重複する路線・航路、アイランドホッピング、など） ・バスと船の乗り継ぎ利便性の向上 ・自治体の交通政策との連携、など
⑦持続可能な観光マネジメントとの連携	<ul style="list-style-type: none"> ・取得データの自然資源負荷モニタリングへの活用方法検討 ・世界自然遺産エリアへの入域コントロール、エリアパスポートへの展開・連携検討、など
⑧（仮称）八重山観光交通コンソーシアムの組成と定期開催	<ul style="list-style-type: none"> ・本取組に関連する交通事業者、観光事業者等による定的な組織の組成 ・八重山MaaS含む各種課題への対応と協調領域の取組促進、など

前述の八重山MaaSを効果的に実施するため、有識者、事業者、関係行政等で構成する検討委員会を設置し、事業実施に係わる具体的方針等のとりまとめや必要な取組について検討を行った。

▼検討委員会の実施概要

第1回 (R4.12.16)	・事業概要および趣旨 ・八重山MaaSの具体的な内容（案）および実証調査について など
第2回 (R5.2.2)	・八重山MaaSの実証調査について ⇒実証調査の概要、モバイルチケット、実証運営体制等について など
第3回 (R5.3.16)	・実証調査の結果報告 ・今後の展開に関する意見交換 など



▼委員名簿

no	区分	所属役職	氏名
1	専門家	琉球大学 工学部 工学科 社会基盤デザインコース 准教授	神谷 大介
2	専門家	一般社団法人 沖縄オープンラボラトリ	山崎 里仁
3	交通事業者	東運輸株式会社 代表取締役社長	松原 栄松
4	交通事業者	有限会社カリー観光 執行役員 社長室長	鹿川 幸一郎
5	交通事業者	有限会社安栄観光 常務取締役	平安名 浩文
6	交通事業者	八重山観光フェリー株式会社 取締役管理部長	石垣 吉宣
7	交通事業者	西表島交通株式会社 代表取締役社長	玉盛 雅治
8	交通事業者	有限会社船浮海運 代表取締役	池田 卓
9	関係行政	沖縄総合事務局運輸部企画室長	村上 隼
10	関係行政	沖縄県文化観光スポーツ部観光振興課 受入推進班 班長	比嘉 真之
11	DMO	一般社団法人八重山ビザーズビューロー 専務理事	我那霸 宗広

MaaS等を活用した新たなモビリティサービスに関する情報や課題、社会実装に向けた取組み事例を発信し、新たなモビリティサービスに対する理解を深め、各地域の支援を広げることを目的として、シンポジウムを開催した。シンポジウムでは、自動走行関連政策の紹介のほか、先進的に取り組む新しいモビリティサービスの事例や、沖縄県内での実証事業の紹介、パネルディスカッション等を実施した。

▼シンポジウムの開催概要

シンポジウム名称	おきなわスマートモビリティチャレンジシンポジウム
開催日時	令和5年2月22日（水）13時30分～16時30分
開催方法	オンライン開催（Teams利用）
参加申込と 当日参加者数	申込者数：183名 当日参加者数：141名



▼プログラム概要

■自動走行関連政策の紹介

- ・経済産業省 製造産業局 自動車課 ITS・自動走行推進室 課長補佐 井澤 樹

■事例紹介

- ・ジョルダンMaaS事業への取組み及び沖縄での事例紹介
ジョルダン株式会社 執行役員 営業本部長 結川 昌憲
- ・Lv4自動運転や観光客の公共交通利用促進に向けた体制拡充（沖縄県北谷町）
ユーデック株式会社 執行役員 長澤 将臣
- ・観光客・高齢者向けモビリティを両立する新たな交通手段の検証（沖縄県恩納村）
株式会社OTSサービス経営研究所 代表取締役脳科学者 山田 真久
- ・八重山地域におけるMaaS（船・バス）の取り組みについて（沖縄県八重山地域）
株式会社オリエンタルコンサルタンツ沖縄支社 技術部 次長 佐藤 貴行

■パネルディスカッション『将来も魅力的な観光地として沖縄が選ばれるために～旅行における移動手段の多様性確保の必要性について～』

（説明）

- ・Z世代を対象とした「沖縄旅行における移動手段に関する意識調査」の結果について 10分
(一財) 沖縄観光コンベンションビューロー 国内事業部 国内プロモーション課長 喜瀬 涼子
(パネルディスカッション)
- ・モデレーター：琉球大学 工学部 工学科社会基盤デザインコース 准教授 神谷 大介 氏
- ・パネリスト：結川 昌憲（ジョルダン）、長澤 将臣（ユーデック）、山田 真久（OTSサービス経営研究所）、山崎 里仁（沖縄オープンラボラトリ）、大城 弘文（内閣府沖縄総合事務局経済産業部）